



留萌版

『水稻栽培マニュアル』 Ver. 1
～良食味米の安定生産に向けて～

留萌農業改良普及センター稲作部会
平成31年 3月

も く じ

消費者に喜ばれる「留萌産米」を作るために！！	2
留萌版 ～水稲の栽培暦～	4

春

1 スタートはケイ酸資材の雪上散布から	5
2 健苗づくりが低タンパク米安定生産の第一歩	7
3 注意しよう！苗の病気と障害	9
4 早期移植で早期出穂の実現	11

夏

1 効果的な除草剤の使用を	13
2 不稔防止で低タンパク化を実現	17
3 重要です！出穂～登熟期の水管理	19
4 早期発見、早期防除で安定生産	21
5 発生予察で安全・安心な米づくり	23

秋

1 玄米判定で適期刈り取りの推進を	25
2 稲わら搬出が低タンパク米生産の基本	27

消費者に喜ばれる「留萌産米」を作るために！！

1 留萌産米の目標

留萌管内は道内でも有数の良食味米産地です。しかし、生産ロットが他産地に比べ小さいことから、販売については不利な地帯でもあります。

そこで、小ロットでも優位に販売するため、食味の向上と安定生産を進める必要があります。下記の目標を達成するための技術対策を実施しましょう！！

収 量：540kg/10a以上（安定供給に努めます）
 1 等 米：100%（高品質米の安定供給に努めます）
 整 粒 歩 合：80%以上（生育の早期化を図ります）
 精米タンパク：6.8%以下（適正施肥で良食味を維持します）
 安全性の確保：クレーム回避（コンタミ防止に努めます）

2 留萌管内の現状

(1) 品種別作付面積

現在の品種構成は、「ななつぼし」が約60%、「ゆめぴりか」が約35%となっています。また、平成29年度「ゆめぴりかコンテスト」では最高金賞を受賞することができました。これらの高い評価に恥じることはないよう、他品種においても良食味米の安定生産を維持することが重要となります。そのために、まずは地域にあった品種選定を行ってください。

表 1 留萌管内の品種別作付面積（H30）

地区	ななつぼし	ゆめぴりか	きらら397	おぼろづき	ほしまる	酒米	その他	計	
留萌市	267	152	0	0	1	0	41	462	
小平町	678	308	11	2	11	0	31	1,041	
増毛町	117	88	0	0	3	28	18	255	
苫前町	569	208	0	10	0	0	0	787	
羽幌町	495	450	38	19	14	0	19	1,035	
計	面積	2,126	1,206	49	32	29	28	109	3,580
	割合	59%	34%	1%	1%	1%	1%	3%	100%

地区	風の子もち	はくちょうもち	きたゆきもち	きたふくもち				計
初山別村	203	3	47	13				267
遠別町	262	33	0	136				431
計	面積	464	37	47	149			698
	割合	67%	5%	7%	21%			100%

表 2 品種特性(管内での主な品種)

品種名	早晚性		草型	割粳	耐倒伏性	穂孕 耐冷性	開花期 耐冷性	いもち病抵抗性		食味
	出穂	成熟						葉	穂	
ほしまる	かなり早	早	穂数	中	中	やや強	強	やや弱	中	上下
ゆめぴりか	やや早	やや早	穂数	中	やや弱	中～やや強	やや強	やや弱	やや弱～中	上中
ななつぼし	やや早	やや早	偏穂数	やや多	やや弱	やや強	強	やや弱	やや弱	上下
きらら397	やや早	中	穂数	中	中	中	やや強	やや弱	中	中上
風の子もち	やや早	やや早	偏穂数	やや少	やや強	やや強	中	中	中	上下
きたゆきもち	早	早	偏穂数	少	やや強	強	中～やや強	やや弱	やや弱	上下
はくちょうもち	早	早	偏穂数	やや少	強	やや強	中	やや強	やや強	上下
きたふくもち	早	早	穂数	中	中	強	極強	中	中	上下

(2) 気象条件

表3のとおり、留萌管内は内陸部と比較し、積算温度が確保できない地帯です。特に移植～最高分けつ期(5～7月)の気象条件が厳しい地域であることが分かります。これに対応するためには、低温に負けない初期生育を促進する基本技術の励行が必要です。

表3 留萌管内の月別積算気温(平年値・平均気温)

地区	5月		6月		7月		8月		9月		5～9月積算	
	5月積算	差	6月積算	差	7月積算	差	8月積算	差	9月積算	差	積算計	差
留萌(幌糠)	320	-	458	-	596	-	630	-	459	-	2,462	-
小平(達布)	322	2	465	7	603	7	635	5	464	5	2,488	26
増毛	339	19	452	-6	595	-1	648	18	511	53	2,545	83
苫前・羽幌	328	8	455	-3	596	0	646	16	507	48	2,532	70
初山別	313	-7	439	-19	578	-18	626	-3	491	32	2,447	-15
遠別	304	-16	437	-21	575	-21	617	-12	473	14	2,406	-56
岩見沢	359	38	479	21	611	15	659	30	508	49	2,615	153
旭川	363	43	497	39	627	30	652	23	478	19	2,617	155

※差：留萌(幌糠)を基準にした場合の各地の平年積算気温の差

3 実需者が求める留萌産米とは

流通・販売業者からは、品質や食味の高位平準化が常に求められています。特に需要が増加し、逼迫傾向にある業務用米については、大型施設で炊飯しているだけに単品以上の品質安定化が求められています。留萌管内においては、良食味米の供給基地であり続けるため、たゆまない努力が必要となります。

消費者に喜ばれる「留萌産米」安定生産に向けて

- 春の1 スタートはケイ酸資材の雪上散布から
 2 健苗づくりが低タンパク米安定生産の第一歩
 3 苗の病気・障害防止で健苗育成
 4 早期移植で早期出穂の実現を

夏の1 効果的な除草剤使用で雑草をノックダウン
 2 不稔防止で低タンパクの安定生産を
 3 出穂～登熟期の水管理で粒張り良好な米づくり
 4 病害の早期発見、早期防除で安定生産
 5 害虫の発生予察で安全・安心な米づくり

秋の1 玄米判定で適期刈り取りの推進を
 2 稲わら搬出が低タンパク米生産の基本

留萌版 ～ 水 稻 の 栽 培 暦 ～

は種期(4月20日)



中苗マットのは種風景 成苗ポットのは種

出芽期(4月26日)



成苗ポット苗
出芽が始まった状態
出芽の適温は30～32℃

中苗マット苗
出芽が揃った状態

移植期(5月25日)



中マット苗の移植作業
管内の移植始は5月20日、移植終は5月30日

活着期(5月30日)



移植が終わって7日程度で新たな根が伸び、本格的な生育を始めます

分けつ始(6月6日)



移植して2週間程度経過すると新たな茎(分けつ)が発生します。次々に新たな分けつが生じ、株全体では多数の茎となります

月
平均気温
遠 別
羽 幌
留 萌

4月

4.5℃

5.5℃

4.0℃

5月

9.9℃

10.6℃

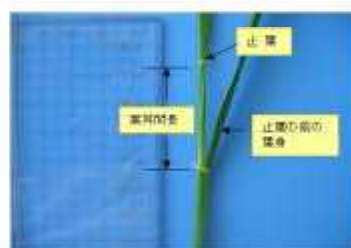
10.6℃

幼穂形成期(6月30日)



6月末～7月初旬
茎の基部に幼穂ができる。
低温の影響を受けやすい時期なので、
深水管理を始めます

止葉期(7月19日)



7月下旬、止葉が抜け出て5cmになったら
冷害危険期は終了。根の活力を維持する
ため、中干しを実施します

出穂期(7月29日)



7月末～8月初旬
気温が23℃を超えると開花し受粉が行われます。

成熟期(9月13日)



出穂後約45日頃
籾の90%が黄化し成熟籾になります

収穫期(9月26日)



そして、総りの秋

月
平均気温
遠 別
羽 幌
留 萌

7月

18.6℃

19.2℃

19.9℃

8月

20.0℃

20.9℃

19.1℃

9月

15.7℃

16.9℃

15.5℃